

静岡市立長田東小学校

出前授業レポート

静岡県埋蔵文化財センター

令和4年7月12日(火)



「実際に見る、触れる、体験する機会を作ってください、とても良かったです！」

静岡市立長田東小学校の6年生148人が、社会科の授業で、昔の人の暮らしについて体験的に学ぶと共に、歴史学習への興味を高めることを目的に、藤井先生が計画して、発掘調査の話（学校周辺の遺跡）、土器の分類、石器の試し切り、火起こしの4つの体験をしました。

発掘調査の概要と周辺の遺跡について(講話)

はじめに、埋蔵文化財センターの業務内容を伝えました。遺跡発掘の方法や保存処理の難しさなどを興味深く聞いていました。次に、長田東小学校周辺の遺跡について話しました。自分たちの学校の近くに遺跡があることを知って、大変驚いていました。



「貴重な話が聞けて、とても面白かった。」「小学校の周りに遺跡があることを初めて知った。」

土器の分類体験



縄文時代・弥生時代・古墳時代の土器を見て、土器の特徴を考えました。土器片の分類をするときは、完形土器をよく観察して、違いを把握して分類しました。作り方の違いや焼き方の違いなどを知ることで、分類が進みました。

「それぞれの土器の特徴がよく現れていた。」「知らなかった土器を知ることができて、土器って面白いと思った。」



石器の試し切り体験



打製石器や磨製石器、黒曜石などを見ることで、昔の人々が暮らしの中で石をどのように活用していたのかを考えました。その後、黒曜石で、新聞紙や野菜くずなどを切ってみました。石で切れると思っていない子どもたちは、意外に切れることを実感し、石の大切さを知り、昔の人々の工夫に感心していました。

「石で切るのは大変だった。昔の人はすごい。」「黒曜石はよく切れてすごいと思った。」



火起こし体験



時折雨が降る天候で、火起こしの条件としては良くありませんでしたが、体育館と校舎の軒下で何とかやることができました。火起こしの時間を30分間とったこともあり、各グループ1～2回は火を起すことができました。なかなか着かなかったグループも、藤井先生の協力もあり、時間ギリギリのところまで火を起すことができました。



「火の起こし方がたくさんあった。」「昔の人は火起こしするだけでも大変なのに、調理もして大変だと思った。」

藤井先生の感想

「実際に見る、触れる、体験する機会を作ってください、とても良かったです。火起こしの時間も考え、30分間ずつにしたことも良かったです。子どもたちに丁寧に優しく対応してくださいました。子どもたちは、すごく楽しそうで、満足して体験を終えることができました。大変暑い中、本当にありがとうございました。」

「貴重な体験ができてうれしかったです。」

